牧野圭一先生、お疲れ様でした

2022年8月14日、マンガ家の牧野圭一さんが84歳で永眠されました。

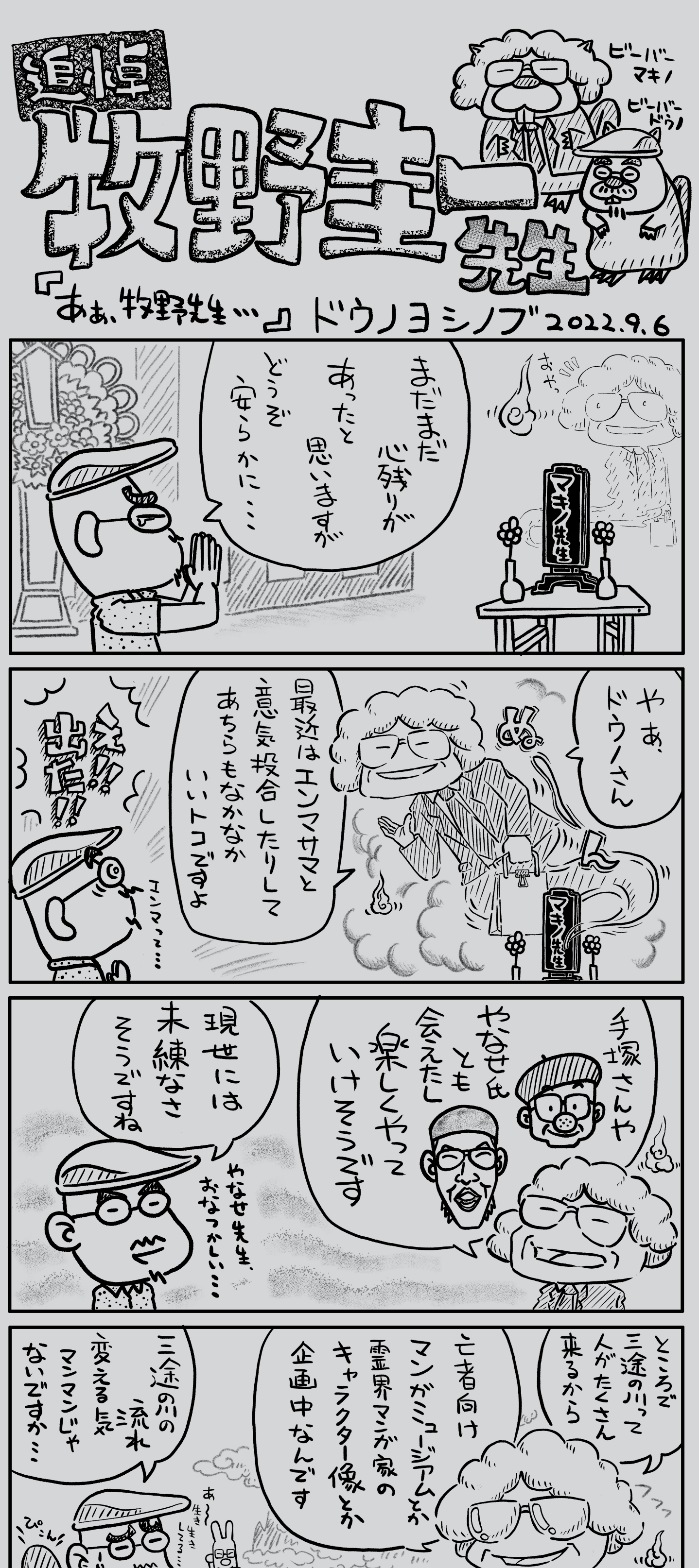
牧野さんは、アニメーター、広告マンなどのサラリーマン生活を経て、1966年、政治諷刺マンガ家の巨匠・近藤日出造氏に師事、本格的にマンガ家の道に入られます。1976年からは、師匠の後を継ぐ形で『読売新聞』に政治一コママンガを89年まで担当、名実ともに政治諷刺マンガ、一コママンガの第一人者となります。

マンガに関する多くの組織や施設に関わり、この文化を支えるための土台作りに奔走すると同時に、様々な領域に「マンガ」という文化を持ち込み、刺激的な化学反応を起こしてきた天才的プロデューサーでもありました。そうした土台でもあり化学実験場でもある、ここ京都国際マンガミュージアムは、牧野さんが構想段階から関わられ、今もそのイズムが尊重されているという意味で、最大の牧野作品のひとつと言えるかもしれません。

ここでは、そんな牧野先生に敬意を表し、膨大なお仕事のほんの一端と、6人の関係者に寄稿いただいた追悼文を紹介します。

牧野先生、おつかれさまでした。そして、本当にありがとうございました。ゆっくりお休みください。

（京都国際マンガミュージアム）


追悼
牧野圭一先生
ビーバー マキノ
ビーバー ドウノ
『ああ、牧野先生…』ドウノヨシノブ 2022.9.6
おや
まだまだ心残りがあったと思いますがどうぞ安らかに…
マキノ先生
やあ、ドウノさん
ぬ
最近はエンマサマと意気投合したりしてあちらもなかなかいいトコですよ
え！出た!!
エンマ…？
手塚さんややなせ氏とも会えたし楽しくやっていけそうです
現世には未練なさそうですね
やなせ先生、おなつかしい…
ところで三途の川って人がたくさん来るから
亡者向けマンガミュージアムとか霊界マンガ家のキャラクター像とか企画中なんです
三途の川の流れ変える気マンマンじゃないですか…
ぴこーん
あ 生き生きしてる…
マキノワールド
ステにダ生はイルリです。

牧野先生へ・
最後のお手紙

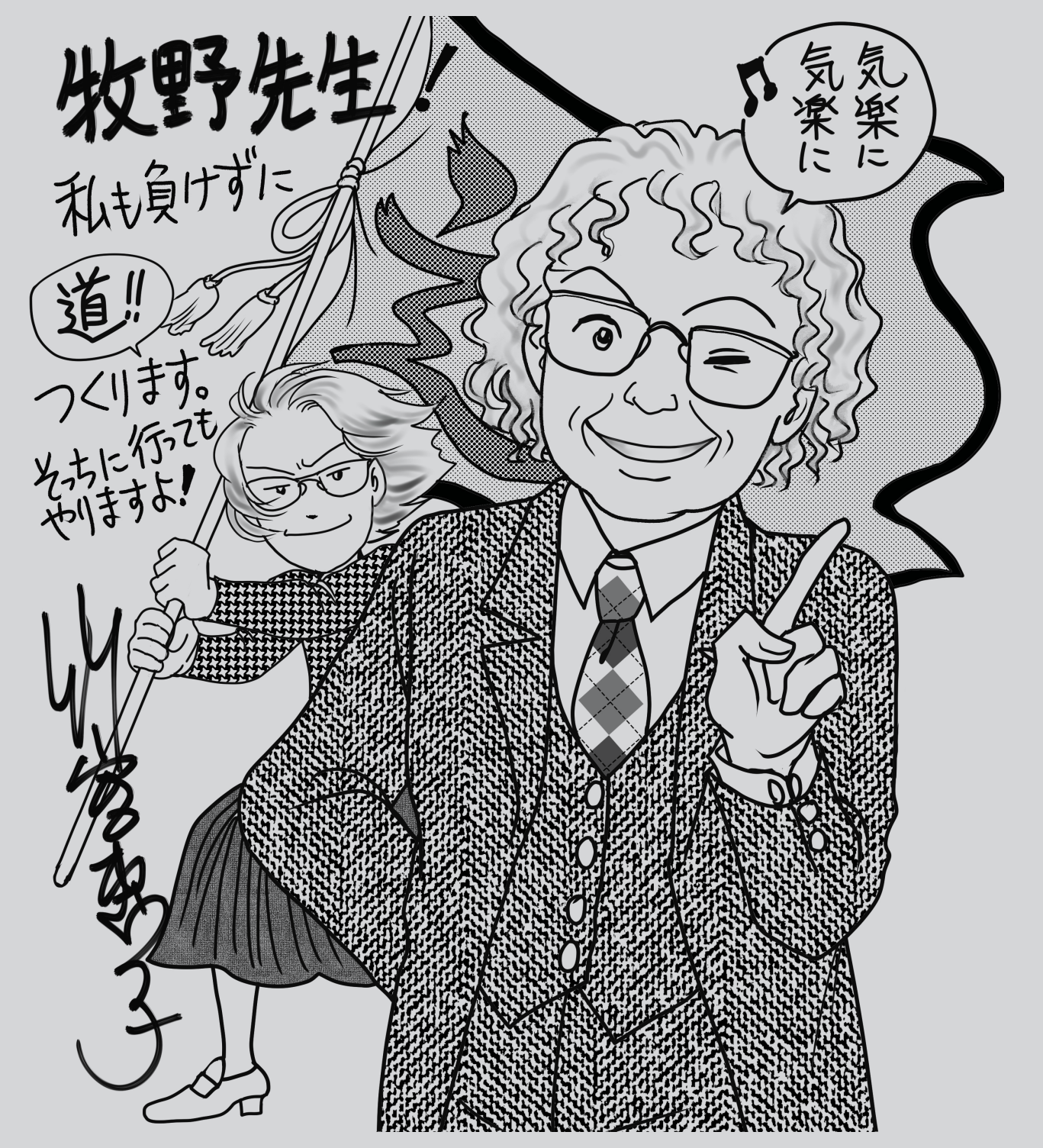
竹宮惠子（漫画家）

牧野先生!!

牧野先生が京都精華大学におられなかったら、ストーリーマンガが大学に学科として設置されることはなかったでしょう。それも2000年という時期に、早すぎると言えるような展開でした。それに乗った私も私ですが、新しいものに目がなくて、何事もどうかと思案する前にやってみる、その前向きさがなければ提案すら二の足を踏む事案だったと思います。当然学府としては反対の嵐が吹いたはずですが、「実現する!」という可能性の前に嵐はまったく意に介されなかった。その明るさと夢見る力に心から杯を上げます!

いつも陽気で逆境を軽い足取りで乗り越えるところや、毎日気分よくオシャレな三つ揃いで過ごされる（漫画家としては珍しい）ところ、あまたのメールを瞬速で返信されるところなど、勉強させていただきました。忘れられない牧野先生の言葉があります。「ひとつふたつの問題はしんどいかもしれないが、三つ四つになればもういっそ平気ですよ」……強いですよね。教えとさせていただいています。

牧野先生はいつもご自分のことを「提案屋」だと言われていました。「全国どこにでも行って、自治体なんかに自分のアイディアをどんどん提案する。数打ちゃ当たる方式で。根付いてくれれば御の字ですよ」その言葉通り、高知県の一大イベントとなった「マンガ甲子園」は素晴らしい結果を生みました。その行動範囲は全国規模、いやいや世界規模?中国にマンガ美術館を!と、実際に活動もされていました。大学を去られるときもまだまだ途中のアイディアが進行中で、きっとそのまま牧野節が続いたことと思います。旗を振る人がいなければ、確かに世の中は動きません。京都国際マンガミュージアムもまた然り。京都の真ん中にマンガミュージアム!?と、会議が紛糾していた頃、牧野先生が確かにこっそりと旗を振っていたのを私は知っています。先んじて旗を手に取る牧野先生に、心からの拍手を!


牧野先生！
私も負けずに
道!!
つくります。
そっちに行ってもやりますよ!
気楽に気楽に
竹宮惠子

筆者描き下ろしによるイラスト

「第９回国際マンガサミット京都大会」のイベントで、ライブドローイングをする牧野先生（2008年、マンガミュージアムで）

牧野圭一さんの功績

呉智英（マンガ評論家／京都国際マンガミュージアム名誉顧問）

牧野圭一さんは、マンガ実作者であると同時にマンガ文化研究者でありマンガ教育者でもあった。

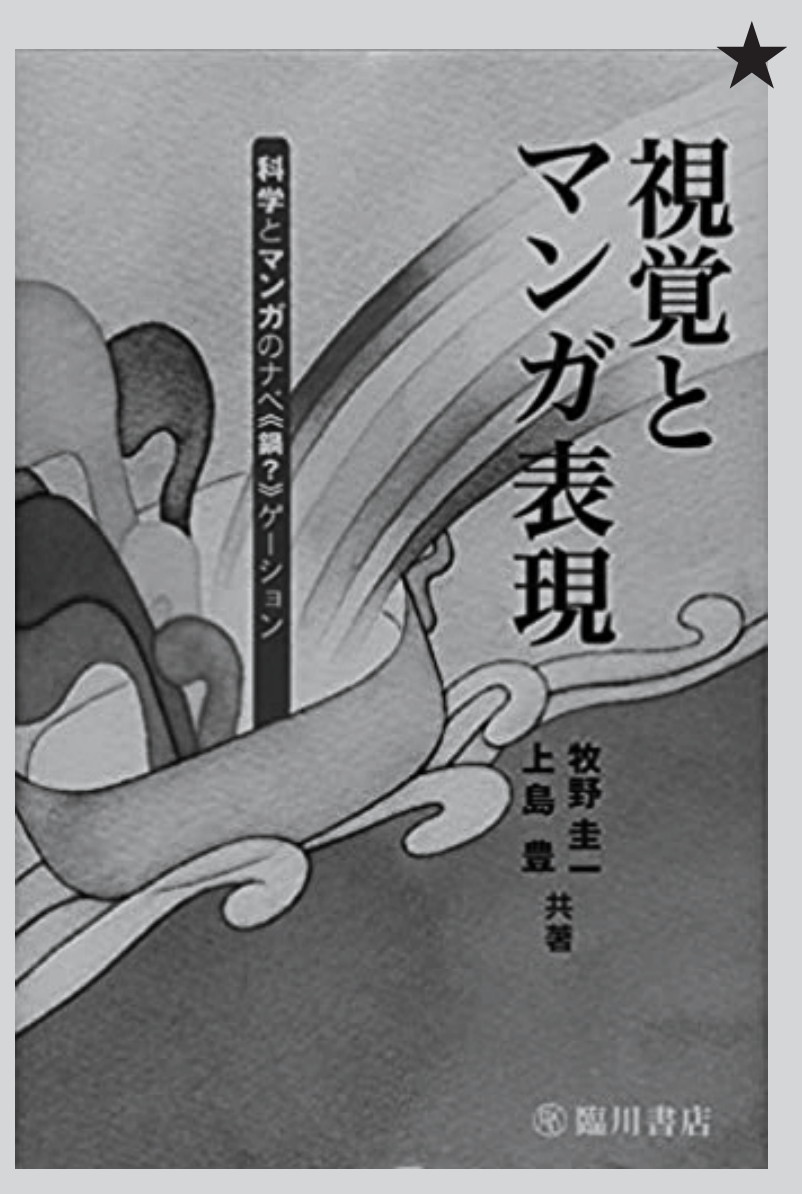
1937年生まれの牧野さんは、少年時代から美術家志望であったが、テレビの絵コンテなどの仕事を経て30代から政治諷刺の一コママンガを描くようになった。1976年からは読売新聞に政治諷刺マンガを連載した。同時に、手塚治虫や石ノ森章太郎と交流もあり、複数コマを使うストーリーマンガにも広く関心があった。2000年に京都精華大学にマンガ学科が開設され2006年にはマンガ学部となったが、牧野さんは教授として準備段階から尽力し、同大の国際マンガ研究センター長も歴任した。マンガを文化・芸術の一ジャンルとして大学で教育・研究するようになる時代の索引役を勤めた。

牧野さんはマンガを「饒舌（じょうぜつ）な象形文字」であると表現している（『"感覚的"マンガ論』NHK出版）。マンガの定義は時代により論者によりさまざまだが、多くの研究者は牧野さんに共通する認識をしている。象形文字は、森羅万象を象（かたど）りながらそれを抽象化し、普遍的な表現記号としたものだ。これを組み合わせれば、さまざまな表現行為が可能になる。マンガを象形文字になぞらえるのは理にかなっている。

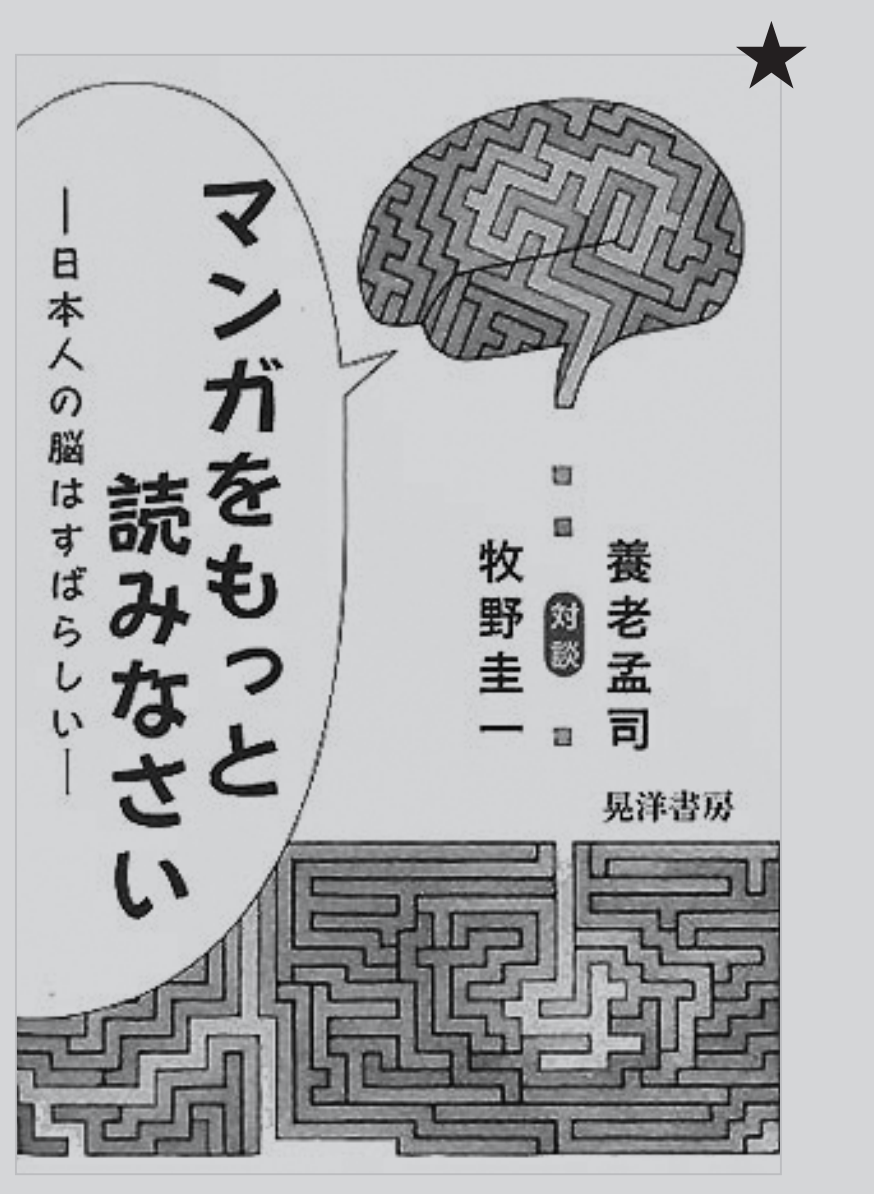
1960年前後まで、マンガの本流は牧野さん自身も執筆していた一コママンガの政治諷刺マンガであった。これは今もマンガの重要な一ジャンルではあるが、現代のマンガはコマを単語・文法のように使うストーリーマンガが主流になっている。そういう時代のマンガ観を牧野さんは持っていた。「マンガ」を「萬画」（よろずの表現ができる画（え））と名付けた石ノ森章太郎との対談（『What's Politics?』所収）でも同旨の話をしている。

伝統的な一コマの諷刺マンガから現代マンガまで俯瞰的に理解し論じられるマンガ文化研究者であった。

『木野評論』臨時増刊「文学はなぜマンガにまけたか !?」京都精華大学情報館、1998年

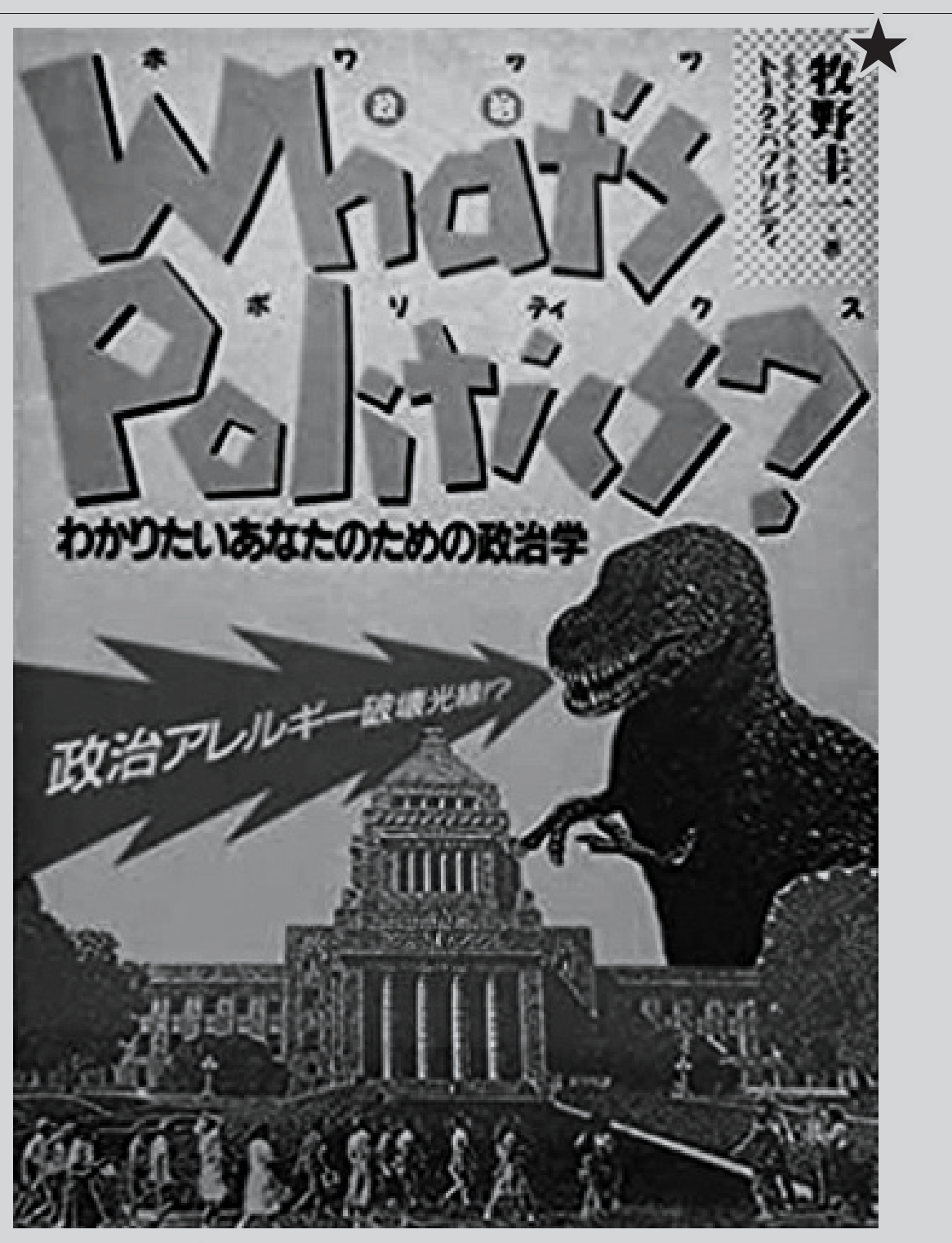


牧野圭一、上島豊『視覚とマンガ表現 科学とマンガのナベ《鍋？》ゲーション』臨川書店、2007年

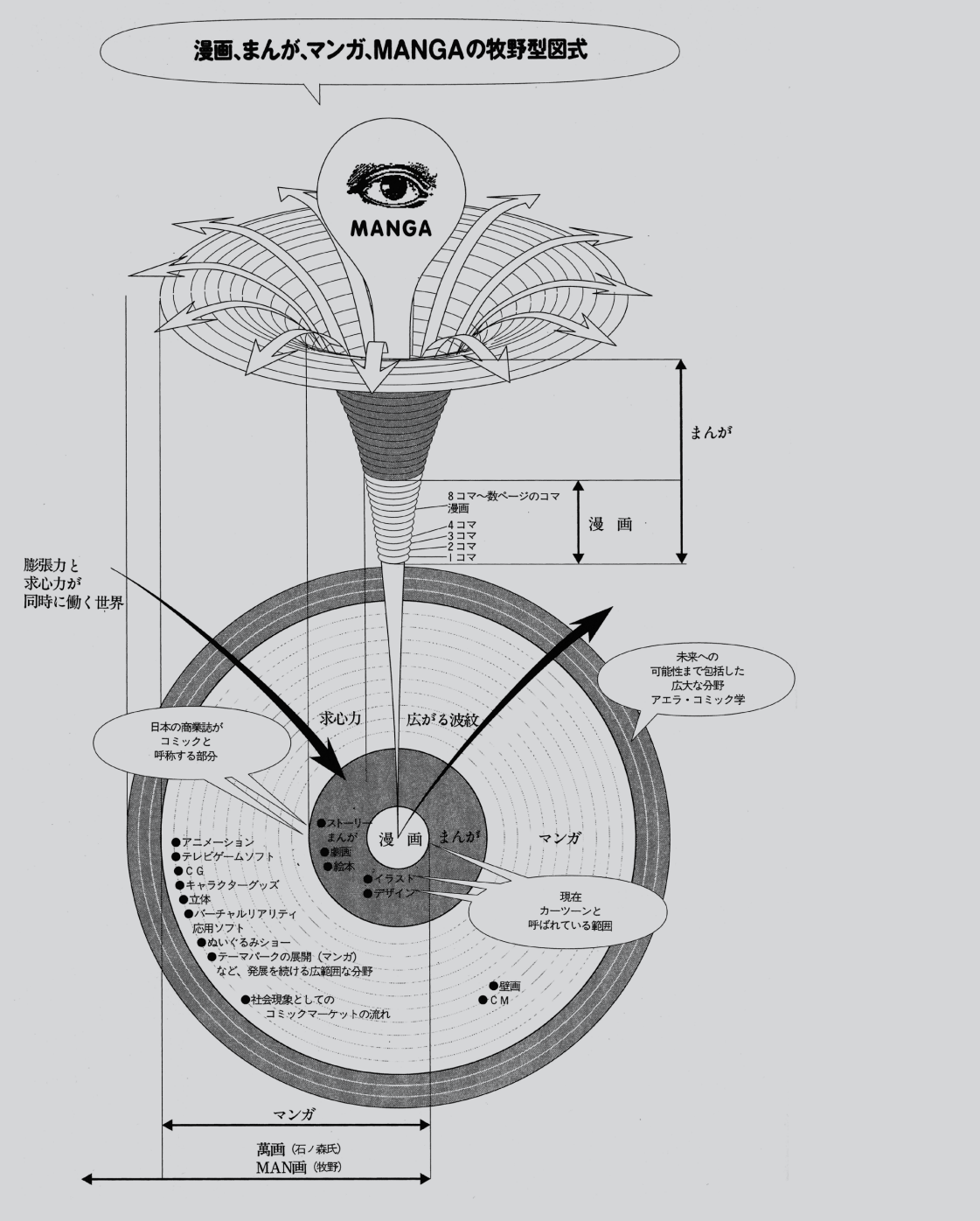


養老孟司、牧野圭一『マンガをもっと読みなさい 日本人の脳はすばらしい』晃洋書房、2005年

牧野圭一『“感覚的”マンガ論』ＮＨＫ出版、2008年

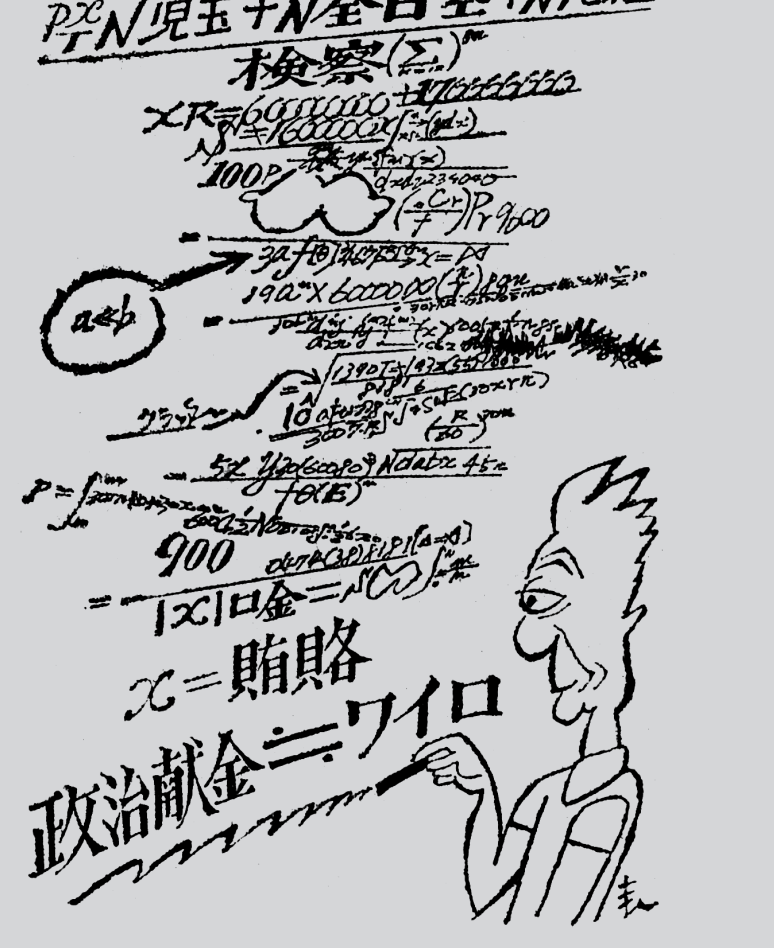


牧野圭一『What‘s Politics?』ワコー、1988年

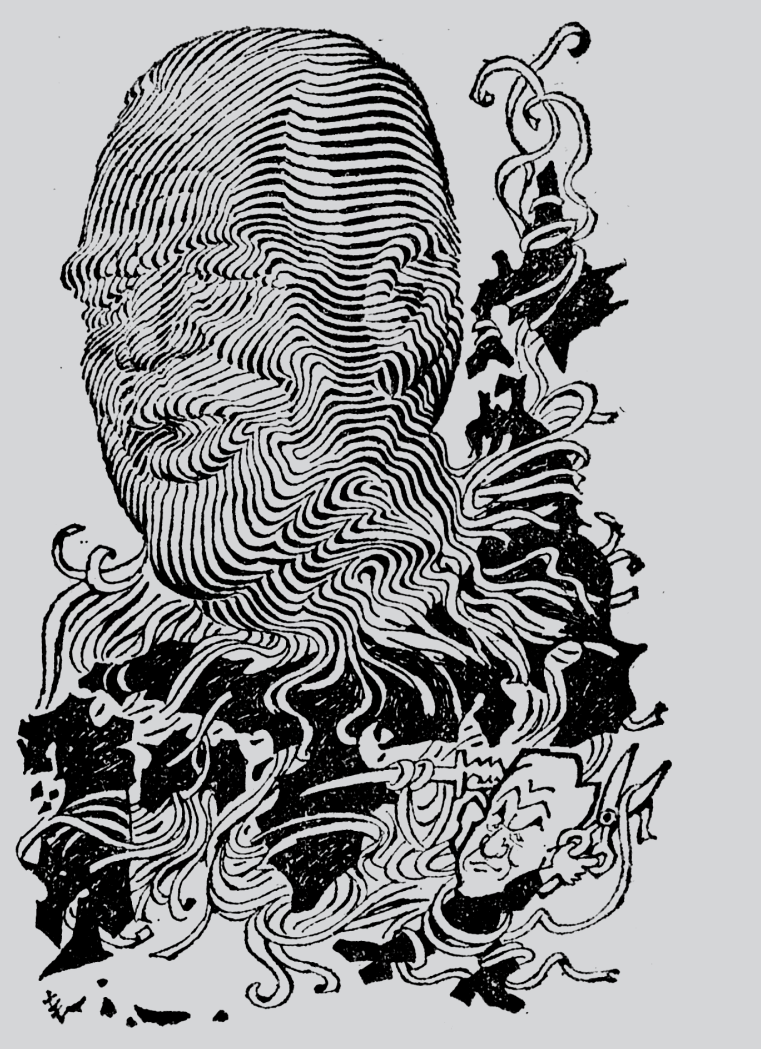

漫画、まんが、マンガ、MANGAの牧野型図式
MANGA
まんが
漫画
膨張力と求心力が同時に働く世界
求心力
広がる波紋
漫画
まんが
マンガ
マンガ
萬画（石ノ森氏）
MAN画（牧野）

『コミック学のみかた。』（朝日新聞社出版局、1997年）より。牧野先生の視野の広さこそ、マンガミュージアムが「マンガ」を幅広く捉える考え方のベースとなっている。

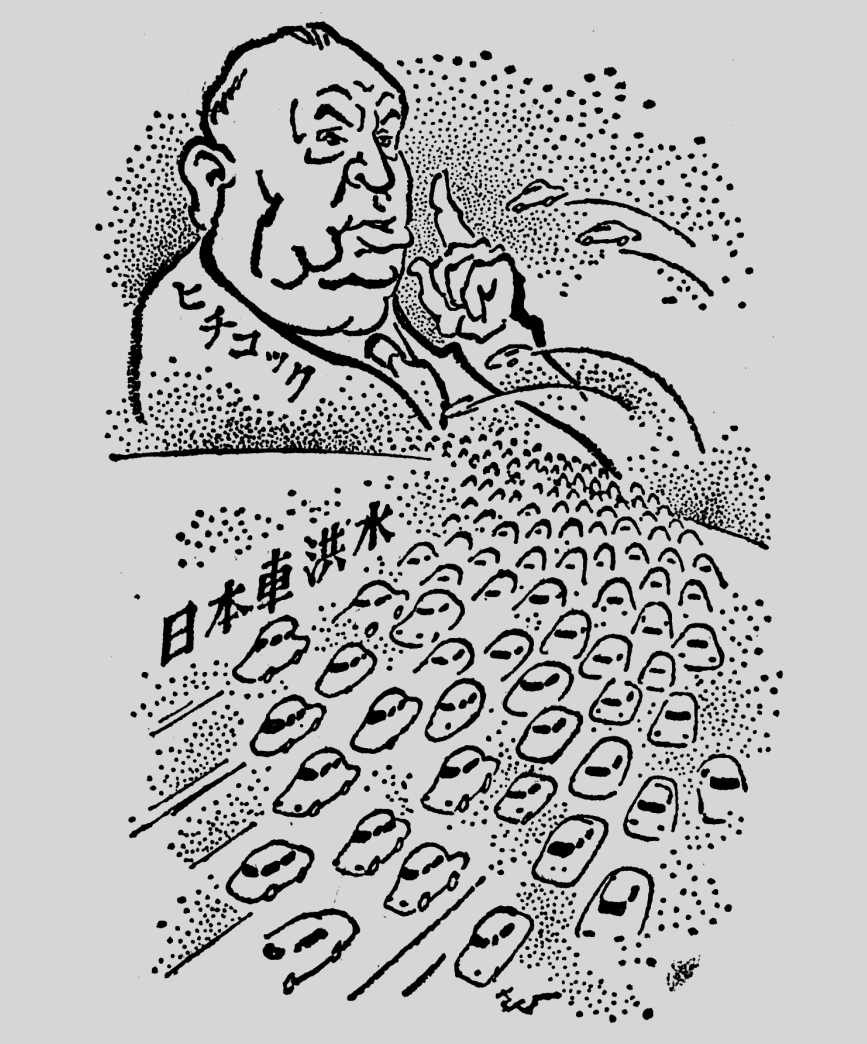
牧野圭一
『読売新聞』政治マンガギャラリー
「1976〜1989」


ロッキード
検察
x=賄賂
政治献金≒ワイロ

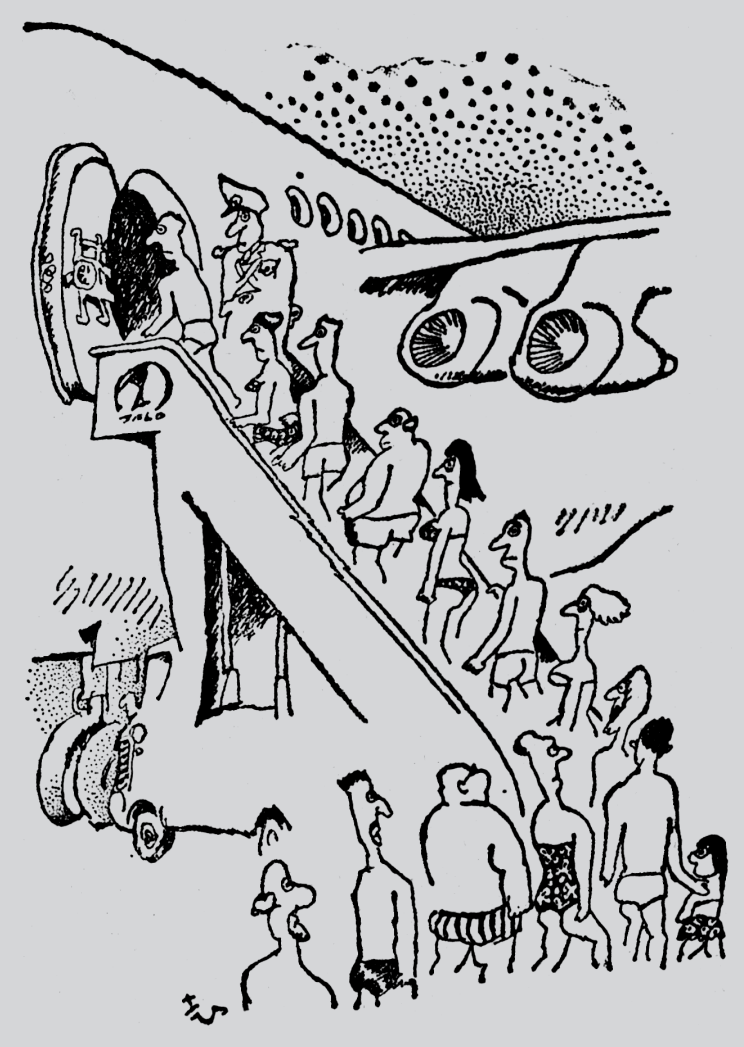
わかっちゃいたけど、オソロシイ結論
1976年7月15日掲載



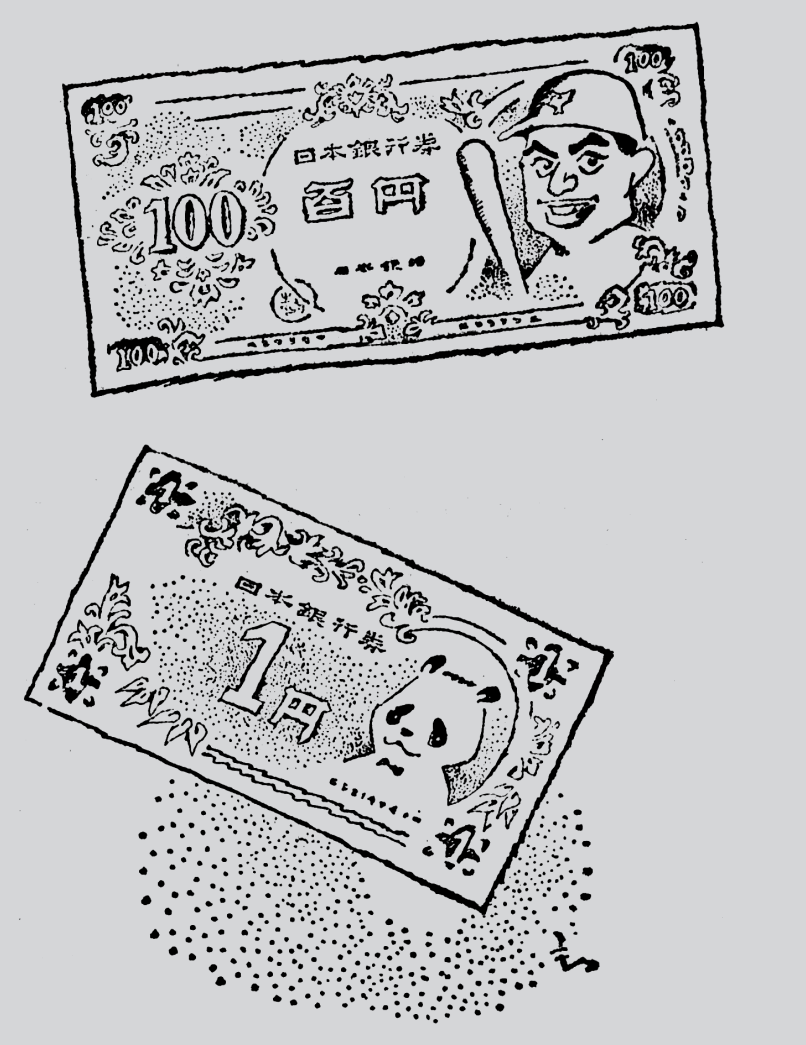
頭より末端の処理が大変
1976年7月31日掲載


ヒチコック
日本車洪水

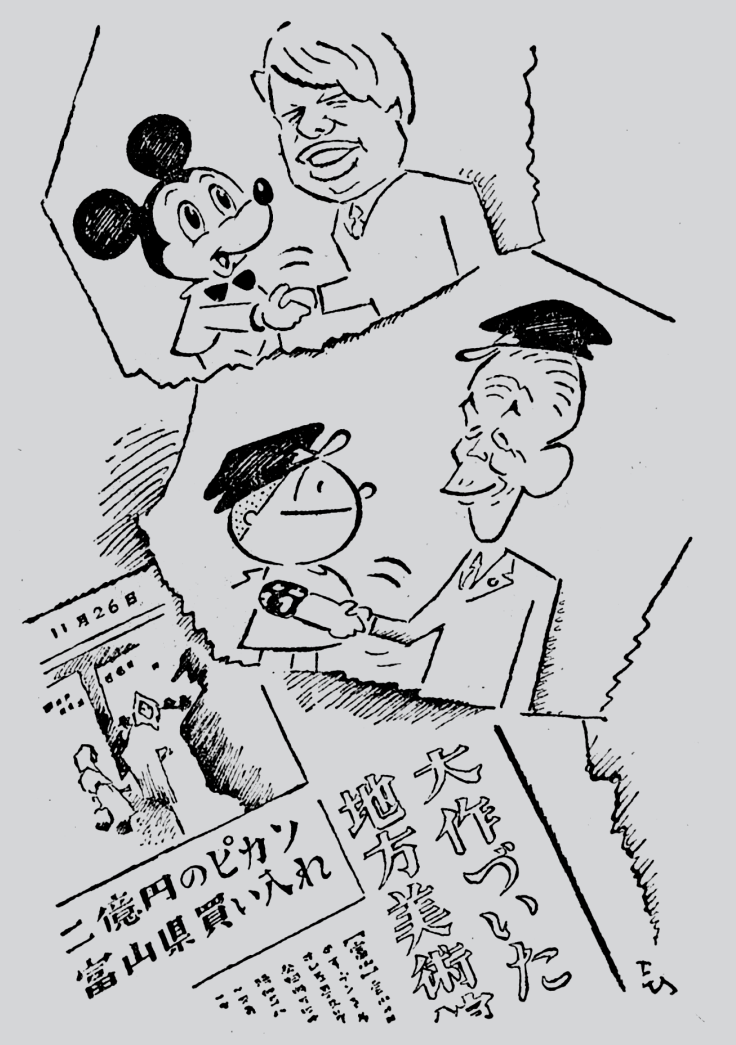
“鳥”をしのぐ恐怖のイメージがわいてきました
1977年6月7日掲載



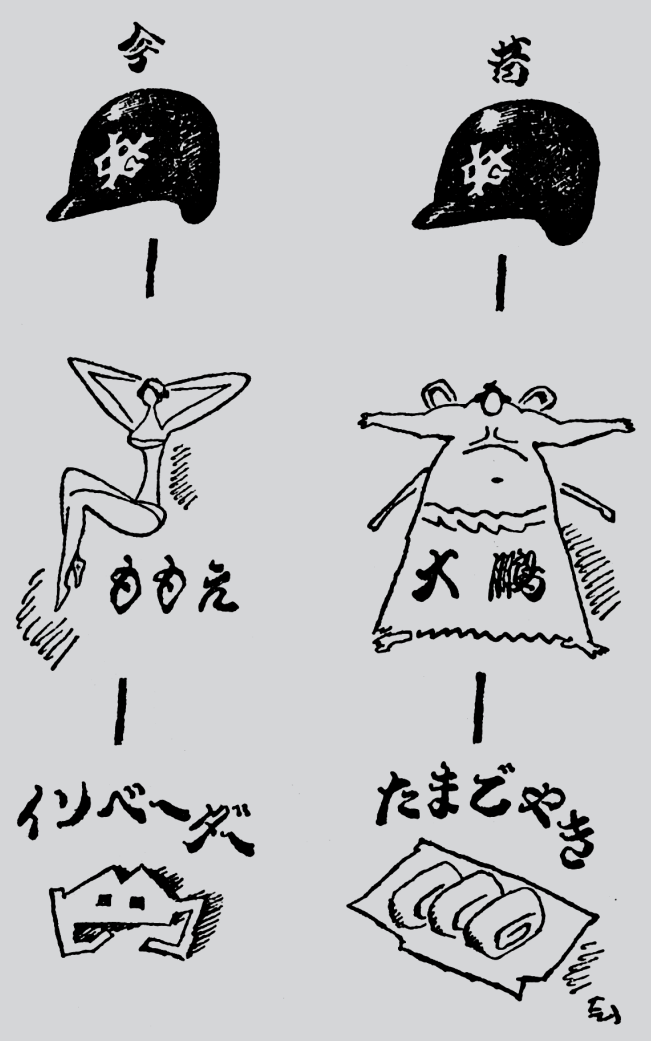
ハイジャック完全防止法
1977年10月15日掲載


日本銀行券
百円
100
1円

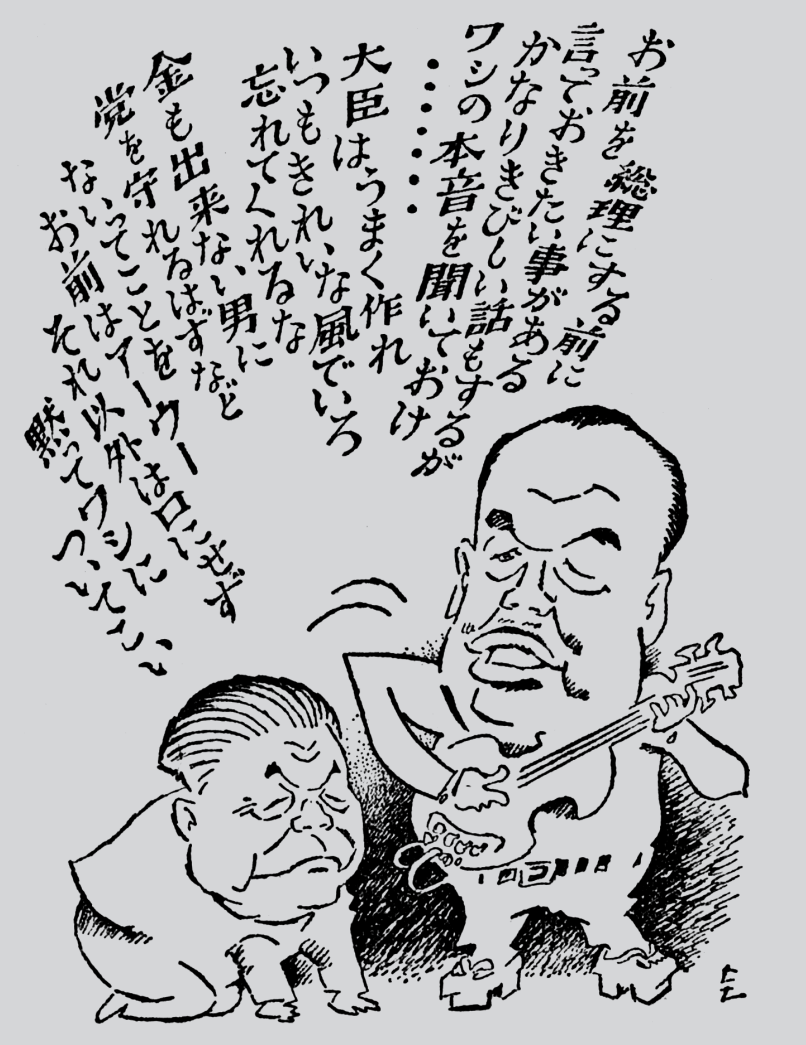
デノミを成功させる“新円”のデザイン
1978年1月3日掲載


大作づいた地方美術
二億円のピカソ 富山県買い入れ

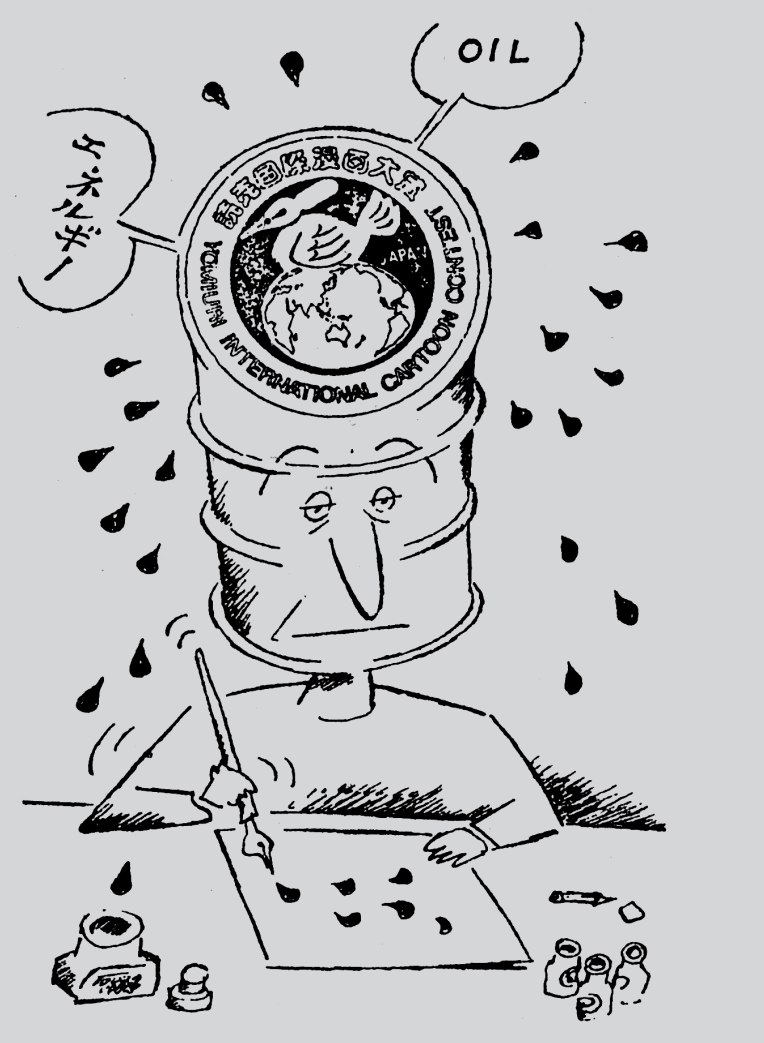
本物の“大国”まであとひと息？
1978年11月27日掲載


今
昔
ももえ
大鵬
インベーダー
たまごやき

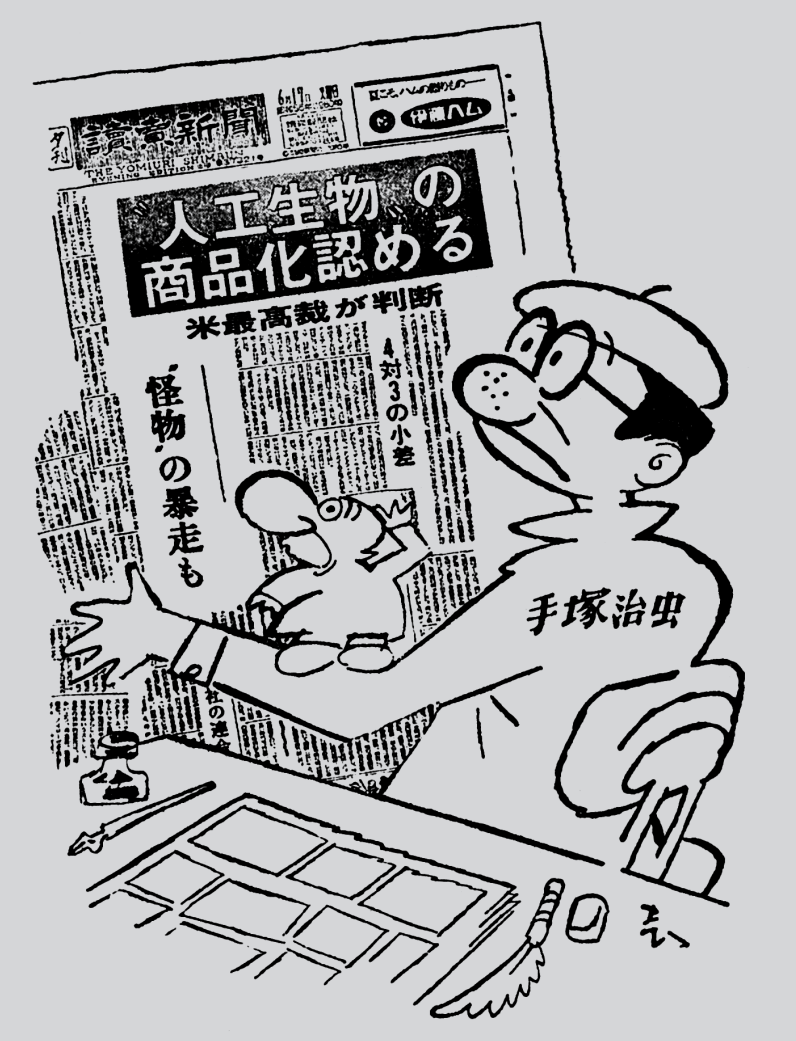
1979年5月3日掲載


お前を総理にする前に言っておきたい事がある かなりきびしい話をするが ワシの本音を聞いておけ 大臣はうまく作れ いつもきれいな風でいろ 忘れてくれるな 金も出来ない男に 党を守れるはずなど ないってことを お前はワシ以外は口出すな それ以外は黙ってワシについてこい

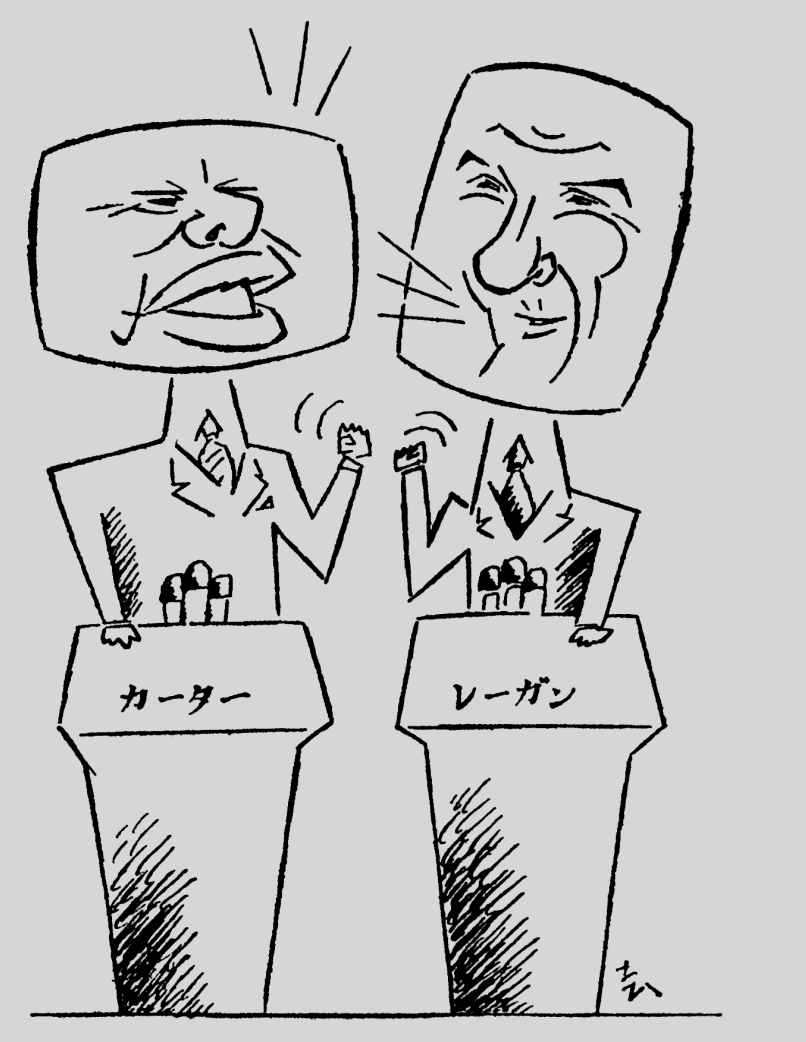
“目白宣言”
1979年8月29日掲載


OIL
エネルギー
YOMIURI INTERNATIONAL CARTOON CONTEST

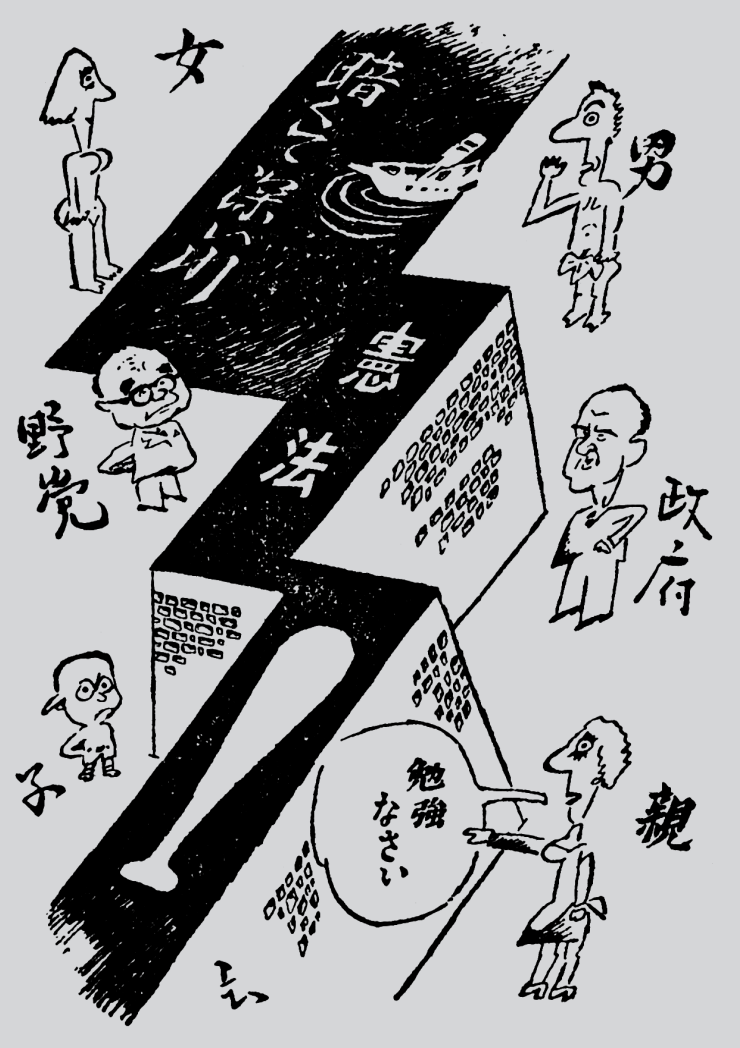
世界中の漫画家もチエを絞りました
（漫画大賞選考終了）
1979年12月11日掲載


人工生物の商品化認める
米最高裁が判断
怪物の暴走も
手塚治虫

ム！ いよいよ漫画に挑戦する気だな
1980年6月18日掲載



タテかヨコぐらいの差で決まる
1980年10月30日掲載


女
男
憲法
野党
政府
親
子
勉強なさい

1980年12月3日掲載

牧野先生との思い出

篠原ユキオ（漫画家）

牧野先生と初めてお会いしたのは1977年の夏頃だったと思う。

奈良市内のホテルの喫茶室で、1コマ漫画家のクミタ・リュウ氏とご一緒だった。

読売新聞社が翌年から開催するという『読売国際漫画大賞』をどうしても成功させたいということで、作品応募への声がけに2人で国内の目立った1コマ漫画家に直接会って協力を依頼してまわっておられているということで、その熱意がひしひしと伝わって来た。

沈滞気味の1コマ漫画界をなんとか盛り上げたいという想いを伝えられ、1コマ漫画のこれからについても熱く語り合ったのを覚えている。

その想いは世界各国の多くの漫画家たちにも伝わり、応募点数は1万点を超えるものとなり、北海道のオホーツク国際漫画大賞、高知県の黒潮マンガ大賞、まんが甲子園など、その後の日本各地での漫画賞企画の起点ともなったのだった。

私はそのコンクールでは第4回の大賞を頂いたが、その後、氏がマンガ学部部長を務める京都精華大学の教授として着任し、京都国際マンガミュージアムの設立にあたっても多くの場面で関わらせて頂きながら次々と新しい企画を実現させて行くエネルギッシュな行動力には驚かされたものだった。

「私はタネを撒くのが自分の仕事だと思っていてね、花が開いたらあとは皆さんにお任せして次のタネを撒く場所を探しに行くんですよ」

常々そう言っておられたのを思い出す。

そしてこれからの日本の1コマ漫画界に新たなタネを撒く人がいなくなってしまった寂しさを感じている。

写真はコロナ前の漫画家協会の総会でお会いした時のものである。胃癌の手術を乗り越えた後で、別人ではと思うほど痩せられていた。

「先生ともいろんな事がありましたねえ」と、なつかしい思い出話をしながら帝国ホテルの懇親会パーティの会場へ向かう途中のワンショットである。私にとってはこれが最後の会話となった。

いろいろお世話になりました。

ご冥福をお祈りいたします。

牧野先生（右）と筆者＝筆者提供

「師を想う」

～そう、これが牧野流～

ドウノ ヨシノブ（えかき／モノづくり作家）

今のマンガ文化に関わる人は、牧野先生の切り拓き思い望んだ流れの上で大きく花開いていると思う。先生には公私ともにお世話になり、先生がおられなければ、今の私の活動に繋がっていないと常に感じている。

ただ先生は、人の名前を覚えるのが苦手で、話は長いのでマイクなど渡すのはもっての外。メールも長くて癖があり、送り先から翻訳して欲しいと私に依頼がくる。作品や書籍も膨大で、散らかってるのか整理されてるのか判別が難しい部屋におられ、朝5時過ぎに「今から京都に行くのですが、昼までに来れますか？」との電話がちょくちょくあり、兵庫県から飛んでいったものです。クリスマス当日に呼び出された時は、「堂野さん、できるよね？」と企画も予算もまるで決まっていないが、年度末までにマンガ冊子の納品だけは決まっている、といった企画を投げられることもしばしば。

京都にいる時は、ほぼ週2で朝食や夕食をご一緒していた事もあり、作家としての生き方や考え方、マンガを他の文化とくっつけて活かしていく事を常々話されていた事を思い出す。

「私たちの生き方はビーバーのダム作りと同じなんだよ。小さな小枝や大きな枝、色々な枝を集めてコツコツと組み上げていく。

せっせと運んで川を堰き止めてダムを作ると、大きく流れを変えたり、環境を変えたりできる。

マンガは万能接着剤なんだから、絵だけじゃなくマンガ思考でどんな物でもくっつけてコツコツとダムを作っていく事が重要なんだ。

いつも君のやりたい事をコツコツ続ける事が重要で、それは私も一緒なんだよ」と。

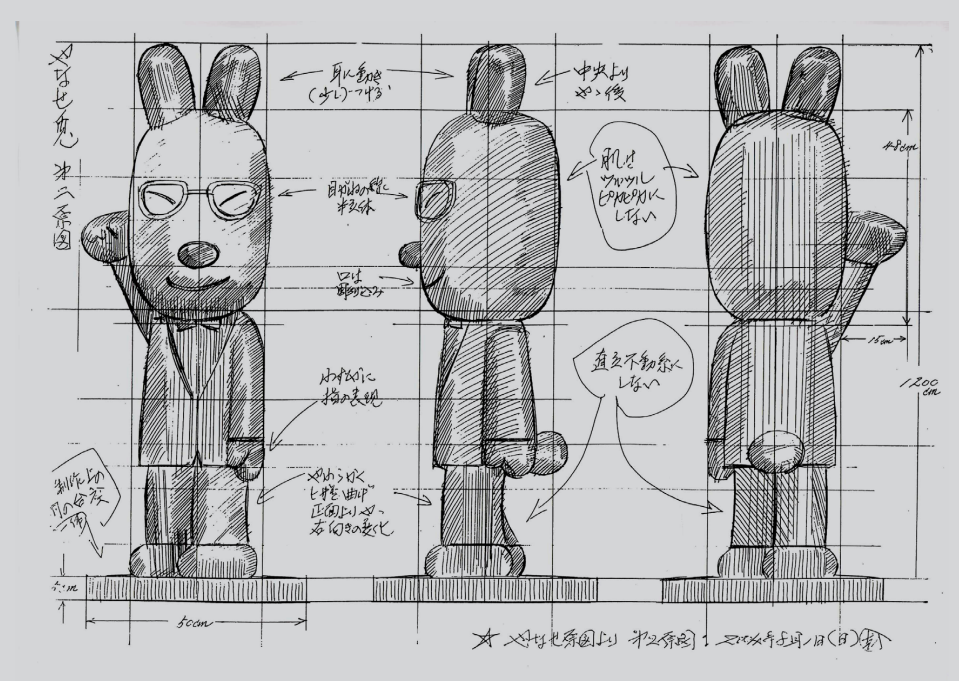
ご存命中に大きなダムが出来たと報告はできていませんが、先生のご意志を弟子ビーバーとして、今日もせっせと運び続けたいと思います。

ご冥福をお祈りいたします。

牧野先生（右）と筆者＝筆者提供
（2017年、日本漫画家協会総会にて）

まんが甲子園
第19回全国高等学校漫画選手権大
自身の発案で92年に始まった「まんが甲子園」で、牧野先生は晩年まで審査委員長を務めた。右からやなせたかし先生、ちばてつや先生、牧野先生（2010年、まんが甲子園にて）＝ドウノ ヨシノブ提供

親交の深いやなせたかし先生の記念館のため、「やなせうさぎ」銅像の設計を牧野先生が担当した＝ドウノ ヨシノブ（写真）／京都精華大学事業推進室（設計図）提供



薬局でおなじみの佐藤製薬のマスコット「サトちゃん」の妹「サトコちゃん」は、牧野先生がデザインした

★

KEIICHI MAKINO
HUMOR ART EXHIBITION
牧野圭一ユーモアART展
『牧野圭一ユーモアART展』カタログ、豊橋市美術博物館、1991年

席の暖まる暇がない！

表 智之（北九州市漫画ミュージアム専門研究員）

私は元々、日本近世思想史の研究者でした。京都と北九州で2回、「マンガミュージアム」の立ち上げに携わることになったのは、色々と不思議な縁に導かれてのことです。その「縁」の根元にいらっしゃる方。私にとっての牧野圭一先生はそういう存在です。

日本マンガ学会の初期からの一参加者としては、重いお立場に比して軽やかなオープンマインドぶりが印象的でした。自分の専門領域の「学会」の息苦しさとは対照的な、立場や意見の異なる者同士が議論の輪に加わることの大切さと楽しさ。牧野先生はそんな空気の中心におられました。後に遅まきながらそのご経歴やご業績を知ると、性格や気質ではなく、決然たる信念で「オープン」を貫いて来られたのだと思い至り、畏敬の念を新たにしました。

京都国際マンガミュージアムでは、会議等で業務上の判断や指示を仰いできましたが、思い返すと、直近の懸案ではなく一歩先のことをいつも語っておられました。それも、次の目的地は「あそこ」だよと指し示すのでなく、ご自身はとっくに先にいっておられて、「ここ」まで来なさいという風情で……先へ先へどんどん行っておられる疾走感が常にありました。

現職の北九州市漫画ミュージアムでは、何かの会合等でお会いする機会があると、「噂は聞いていますよ、頑張っていますね」とお褒めくださり、嬉しく感じると共に、やはりすでに「先」へ行っておられる感じが常にありました。道なき道を踏み分け、若い者を引き入れて事業を興し、細かいことは任せてその次へ。席の暖まる暇がない。自然、「縄張り」も「サル山」も形成しませんから、功績が可視化されにくいのですね。世間には別の誰かの功績に見えるが、実は牧野先生の手の平の上。そういう例が多いと思われます。

牧野先生のオープンさを大いに享受し、手の平の上を邁進してきた一人として、今後その業績をしっかりと顕彰しなくてはならないと感じています。

牧野先生、覚えていらっしゃいますか

吉村和真（京都精華大学マンガ学部教授）

牧野先生の膨大な業績の顕彰は別に譲るとして、ここでは、おそらく誰も知らない一つの企画について紹介したいと思います。

それは「吉村さん（私のこと）を漫画家にする」という、牧野先生が関わられたお仕事の中でも極めて難易度の高い企画のことです。今から約20年前、私が小学生の頃に漫画家になる夢を断念した思い出話をしたところ、牧野先生が俄然やる気になられたのです。

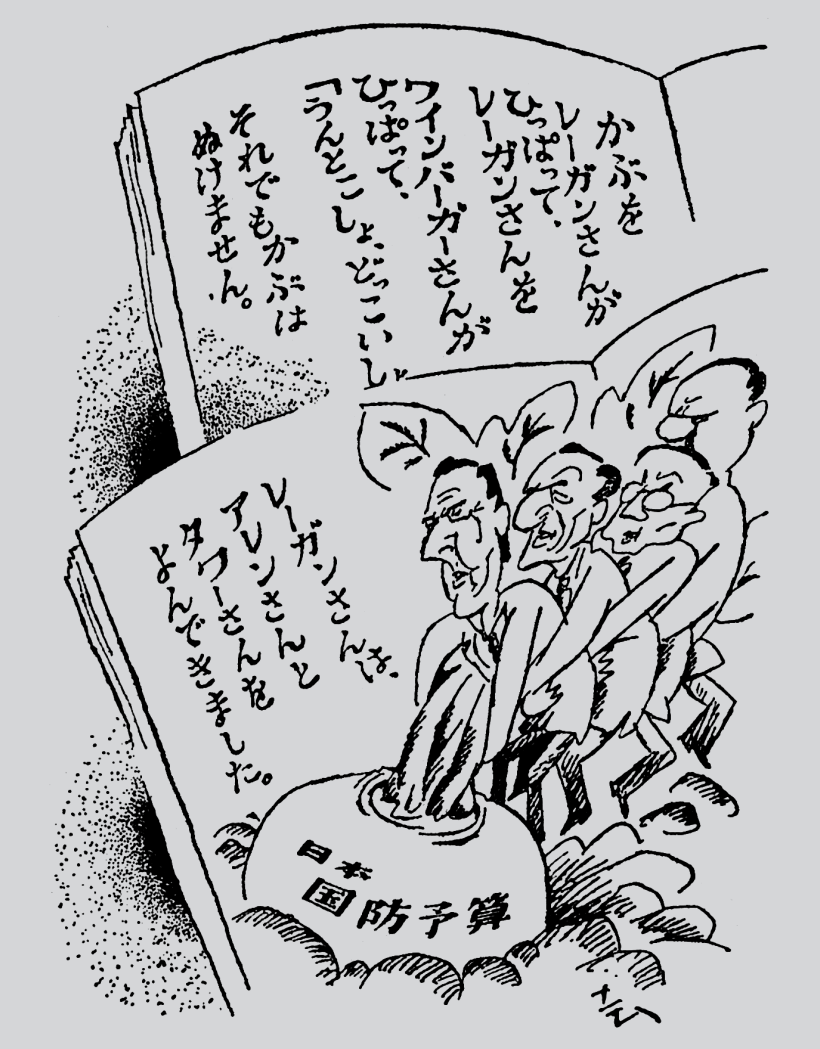
早々に私は、カートゥーンコースの学生たちに混じって京都市動物園でスケッチをすることになり、悩んだ挙句、ぐったり寝ている熊の姿を描きました。それを先生に見せると、笑顔で「おおよくできたね」と丸を付けてくれました。ただしそれは、時間をかけて描いた熊ではなく、その熊の後ろにいてサッと描きなぐった亀のほうに、でした。「これこそマンガの線です」と褒めてくださったのですが、半信半疑だった私の表情を先生が見逃すはずはありませんでした。

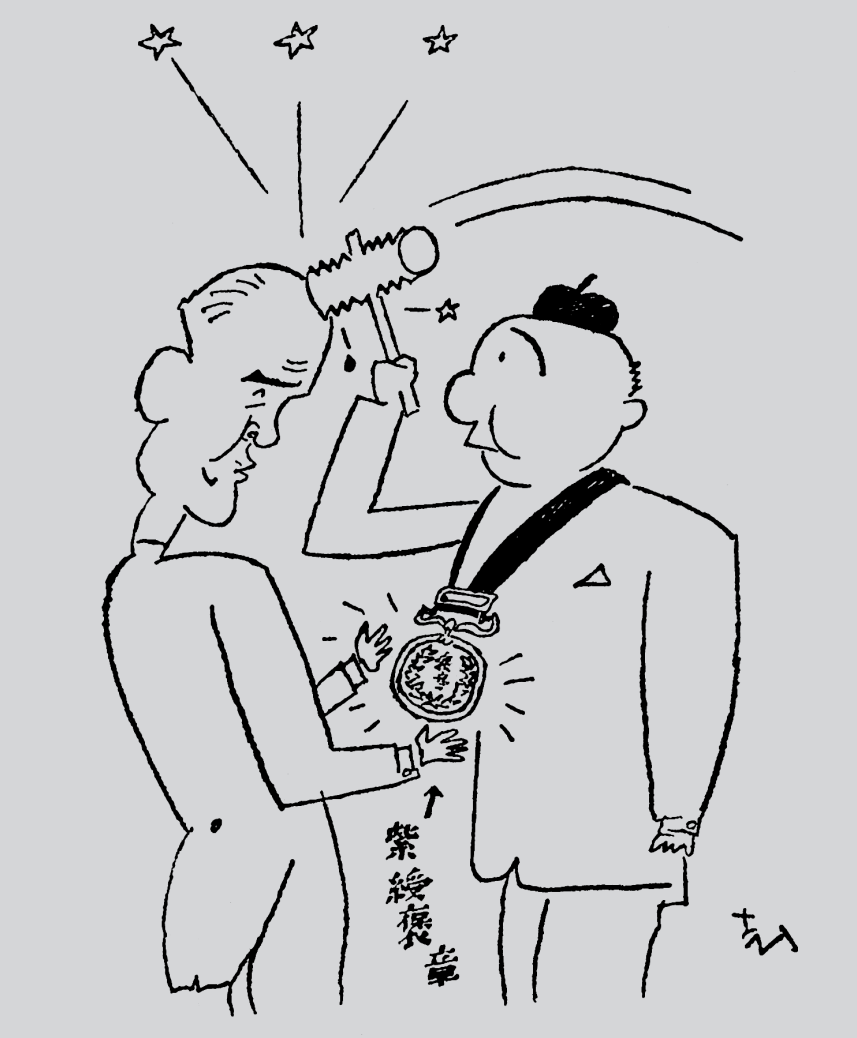
数日後、牧野先生から研究室に呼ばれました。部屋に入ると、ニコニコしながら「ほら、これをご覧なさい。あなたの絵はやはり見込みがあるようですよ」と、一枚のFAX用紙を手渡されました。目を通すと、なんとあの世界的イラストレーター・秋山孝さんによる「なかなか味のある絵ですね」という（それぐらいしか言いようのない）コメントが、あの亀の絵に付けられていたのです！

牧野先生、あの時のことを覚えていらっしゃいますか。あれ以来、私は、牧野先生の言葉とアイディアには一切冷やかしや諦めが無いことを胸に、様々なお仕事でご一緒しました。日本マンガ学会や京都国際マンガミュージアムの設立はその代表例ですが、どんな企画でも牧野先生の本気度は同じでした。

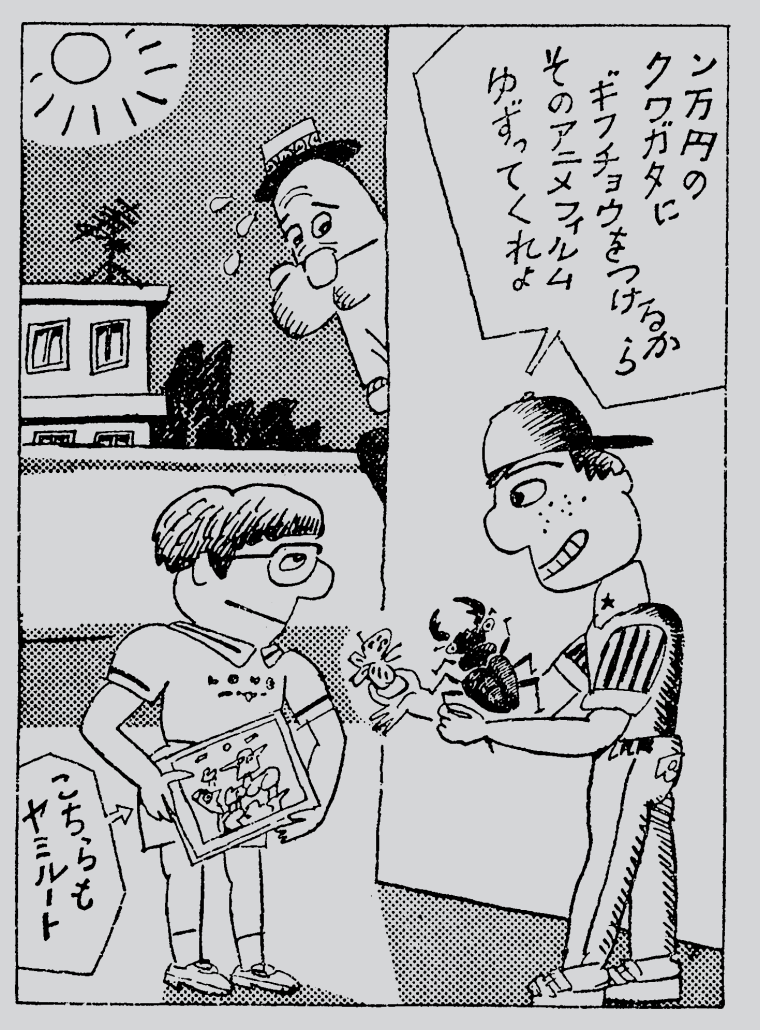
そんな先生と過ごした時間は、私にとってかけがえのない財産です。でも、マンガはまだ描けていません。こればかりは何卒ご容赦ください。

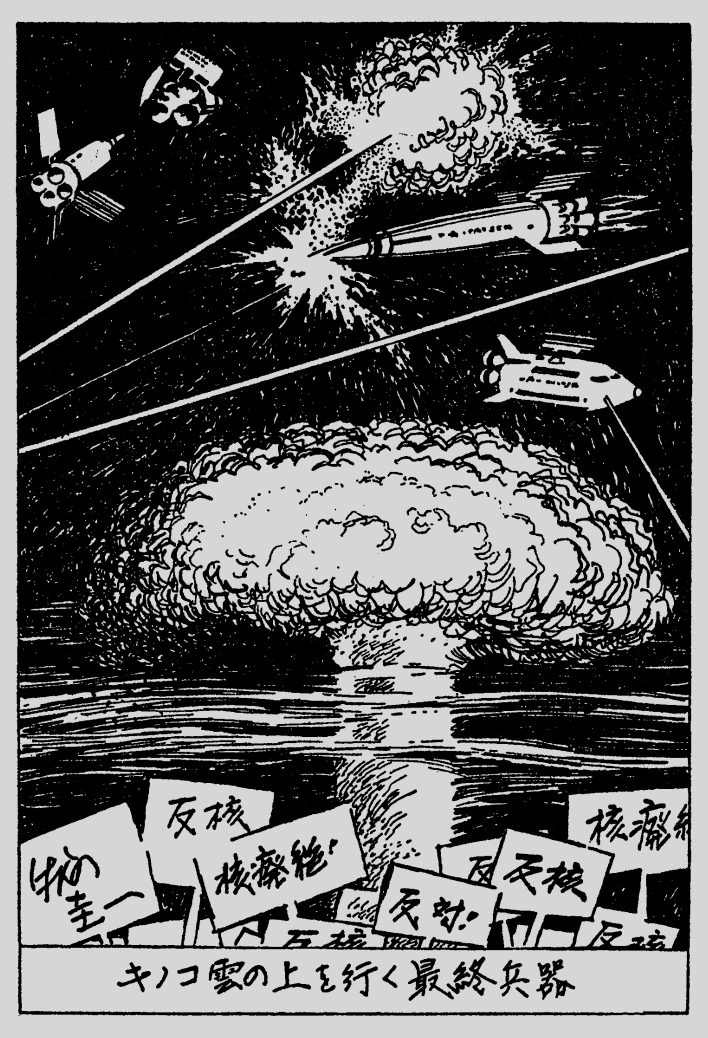
「まだまだこれからですよ」のお声が聞こえてきます…。合掌。

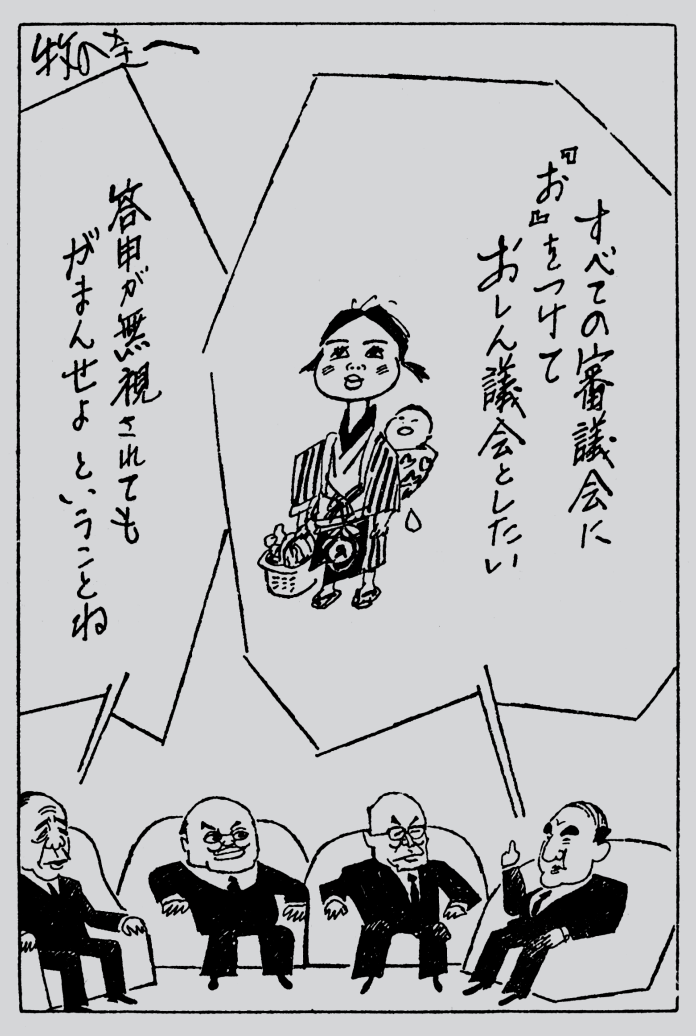

かぶをレーガンさんがひっぱって、レーガンさんをワインバーガーさんがひっぱって、「うんとこしょ、どっこいしょ」それでもかぶはぬけません。
レーガンさんは、アレンさんとタワーさんをよんできました。
日本国防予算
問題の教科書　小一こくご「おおきなかぶ」
1981年7月2日掲載



漫画家も毎年いただくようになりまして――
1981年11月4日掲載

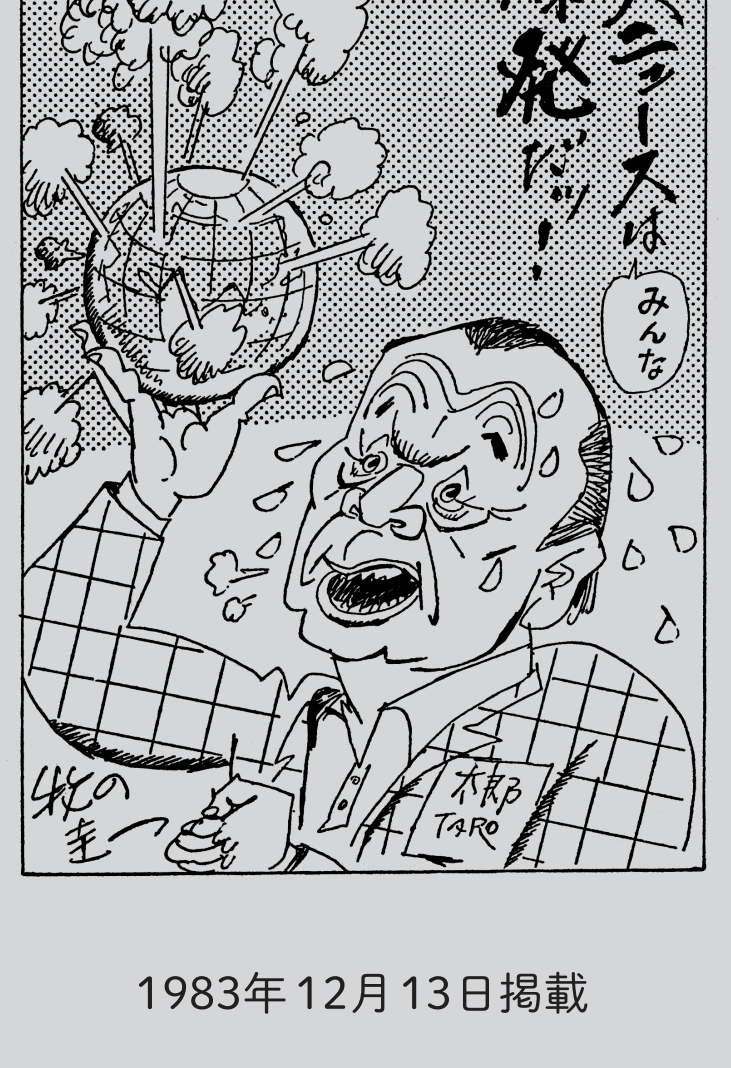

ン万円のクワガタにギフチョウをつけるからそのアニメフィルムゆずってくれよ
こちらもヤミルート
終戦記念日のアツイ午後
1982年8月15日掲載

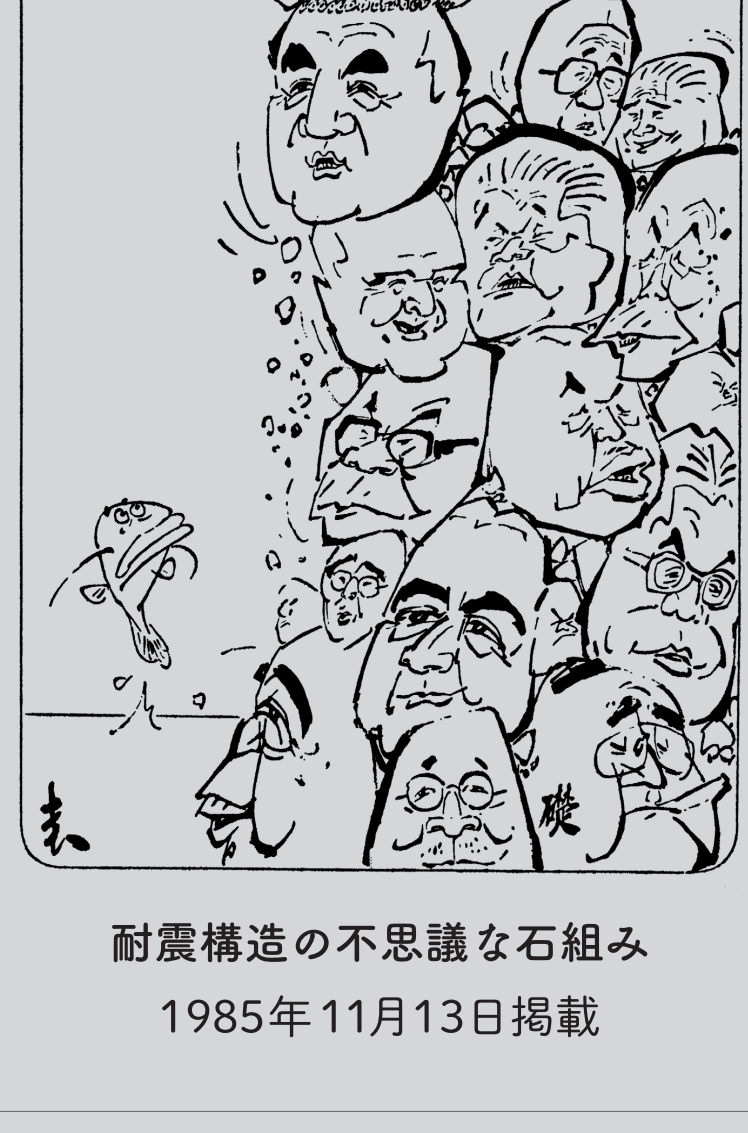

反核
核廃絶
反対
牧野圭一
キノコ雲の上を行く最終兵器
1983年8月5日掲載

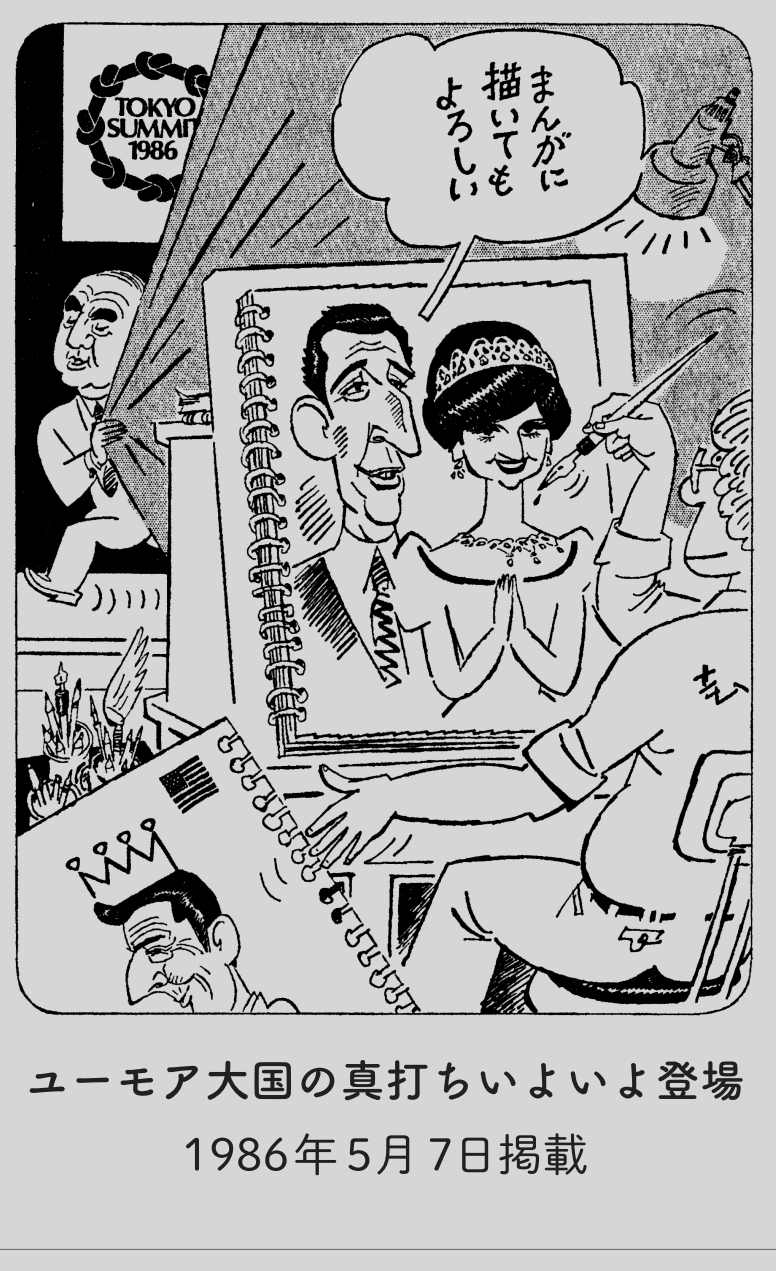

牧野圭一
すべての審議会に『お』をつけておしん議会としたい
答申が無視されてもがまんせよということね
1983年8月15日掲載

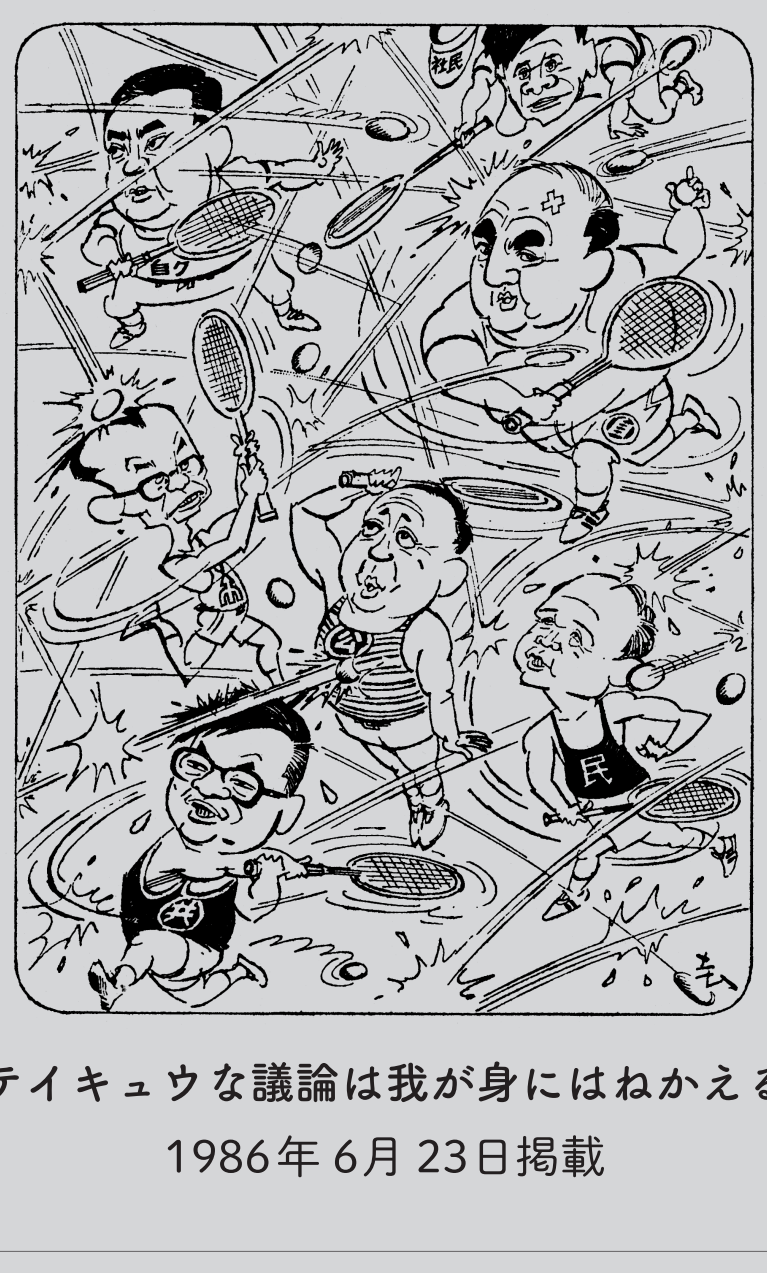
★

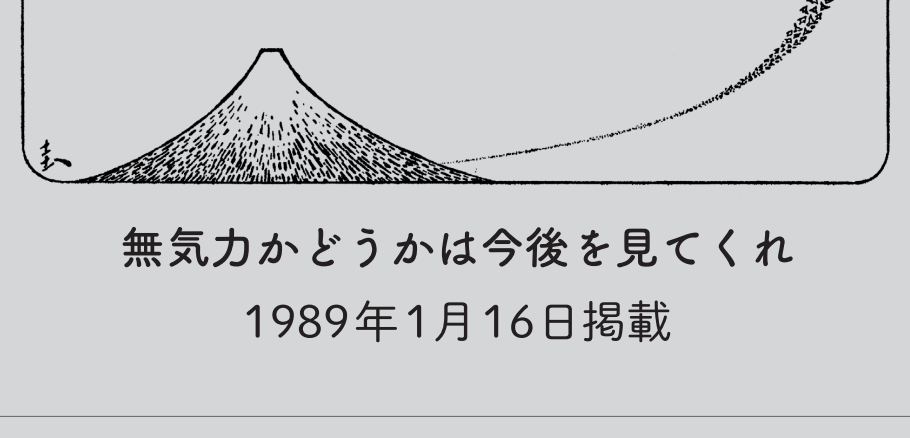
読売国際漫画大賞展
YOMIURI INTERNATIONAL CARTOON CONTEST
Vip
© 1980 Virgil Parch / Orion Press
『読売国際漫画大賞展』カタログ、読売新聞社、1980年


10大ニュースはみんな爆発だッ！
牧野圭一
1983年12月13日掲載

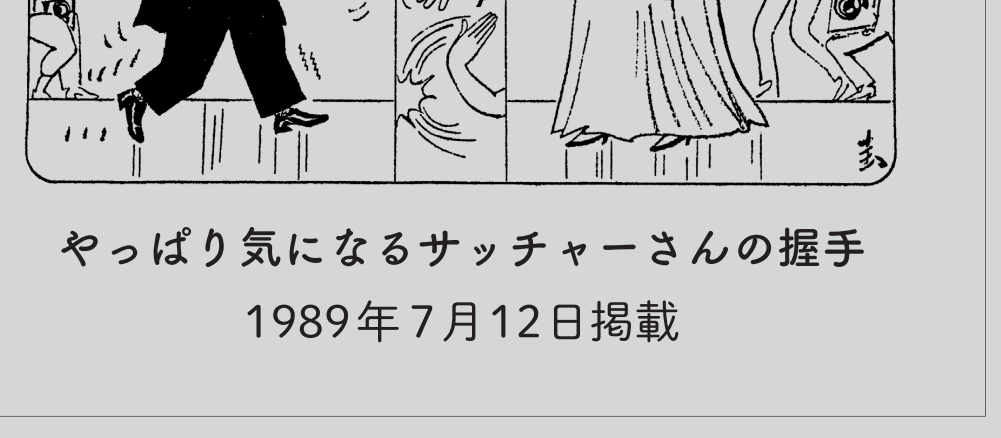

耐震構造の不思議な石組み
1985年11月13日掲載


TOKYO SUMMIT 1986
まんがに描いてもよろしい
ユーモア大国の真打ちいよいよ登場
1986年5月7日掲載


テイキュウな議論は我が身にはねかえる
1986年6月23日掲載



無気力かどうかは今後を見てくれ
1989年1月16日掲載



やっぱり気になるサッチャーさんの握手
1989年7月12日掲載

★の書籍は、京都国際マンガミュージアムにおいて、この「新聞」を拡大して展示（２０２２年10月１日～）した際、現物を手に取って読める形で設置されました。［２０２２年10月８日］